

## クチキコオロギ淡路島の各地に産す

山 崎 俊 道

クチキコオロギ *Duclandrevus coulonianus* (de Saussure, 1877) の産地として、南淡町の福良湾に浮かぶ煙島（一名竹島）は古くから知られた所であるが、筆者は去る10月9日、三熊山においてクチキコオロギ1♂を発見、また10月11日には先山の頂上付近と淳仁天皇御陵において、本種の棲息を確認したので、ここに簡単ながら報告する。

形態および生態についての詳しいことは、後日あらためて発表したいと考えている。

まず、煙島のクチキコオロギ発見のいきさつから触れてみると、昭和5年9月21日、当時中学生であった斉藤実郎、山崎千里両氏の乗る船が、エンジン不調のためやむなく煙島に漂着した。その時周囲の樹上より、ギイーッといった聞き慣れぬ鳴声を耳にし、不思議に思った両氏は鳴声をたよりに探したが、それが発見のきっかけである。

その後、大町文衛博士等が同年冬にこの島を訪れ、成虫と幼虫の採集を行なっている。その時持ち帰った成虫の♂♀は、同博士の手で原寸大の写真に記録され、そのうちの1枚は現在山崎千里氏が所有している。

このように発見されて以来43年間、周囲僅か400mの島に現在もなお棲息している事実は興味深いところであるが、その後の調査によればその数も減少の傾向にあり、一方植物相においても、マツバラシ、サカキカズラ、一年ダケ（絶滅？）のような貴重な植物も同じ傾向をたどりつつある。

このような状況から、煙島に類似した環境を淡路島内より選出して調査を行なったのが今回の発見へのきっかけであり、その対象として三熊山、先山、御陵、常隆寺山、論鶴羽山を重点的に調べた。しかし、やや時期を逸した事もあり、今回発見されなかった常隆寺山、論鶴羽山も断定は来年を待たねばならない。

以下、先山、三熊山での分布について簡単に触れたいと思う。

先山は自動車道を登りつめたあたりで、シイ、クヌギ、ヤマモモの大木が散在しており、いずれもこれら生木の枯れた枝の樹皮下で観察された。午後2時頃であったが、5~6頭が盛んに鳴いており、そのうち地上に倒してある朽木の樹皮下でも1♂が観察された。（採集）

三熊山は筆者の最初の発見地でもあり、10月9日~11月15日間の観察例からも、クチキコオロギにとっては非常に良い環境であることがうかがえる。分布は広く殆んど三熊山一帯で観察され、またその個体数の多いことも特筆すべきことである。棲息する木も様々でマツ、クヌギ、

クスノキ、カゴガシ、ヤマモモ、シイ、サクラなどで、生木、枯木を問わず観察された。しかも、この時期に観察した例では、一つの隠れ場所に pair であることが多く、1本の木で4 pair 確認した例もある。しかも、そのうちの1 pair を採集しても、翌日には再び元の数に戻っていることが多く、この頃の行動範囲は比較的広いものと推測される。

また、夜間の観察例からも、地上に降りて広く歩き回ることを確認している。

以上がこれまで行なった観察のあらましである。なお、本稿を草するに当たり、適切な御助言をいただいた神戸大学農学部の奥谷禎一教授、貴重な資料を快よくお貸し下さった堀田久氏に厚くお礼申し上げます。

(1973. 11. 20)

## クロモンハイイロノメイガ淡路に産す

1961年5月16日と1973年7月27日に南淡町阿万に於て、クロモンハイイロノメイガ *Heterocnephes apicipicta* Inoue を各1頭採集した。(登日邦明氏同定)

登日氏の私信によれば、同種の既産地としては、千葉県清澄山、伊豆半島大滝温泉、高知県足摺岬、北九州市市ノ瀬 皿倉山 奥畑、鹿児島県霧島山などで、希な種とのことである。

末筆ながら、同定並に文献調査を頂いた登日氏に深謝の意を表する。(藤平 明)

## 淡路島のタムシ2種

種

筆者は1972年5月28日に、淡路島でタムシを2頭採集したので報告する。

1. マルガタチビタムシ *Trachys oviformis* Y. Kurosawa  
1 ex. 南淡町福良
2. クズノチビタムシ *Trachys auricollis* E. Saunders  
4 exs. 南淡町福良

なお、マルガタチビタムシは、これまでに兵庫県では多紀郡篠山町において記録されただけである。

(辻 啓介)